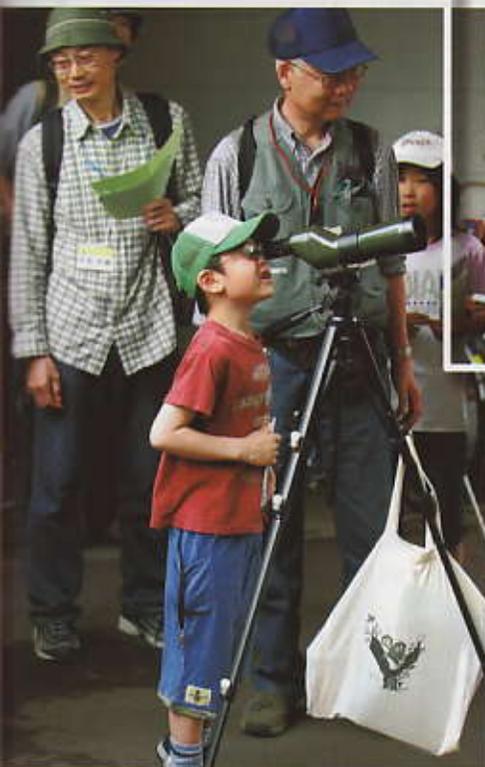


埼玉県志木市
特定非営利活動法人エコシティ志木



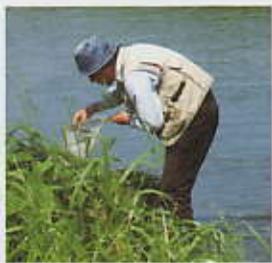
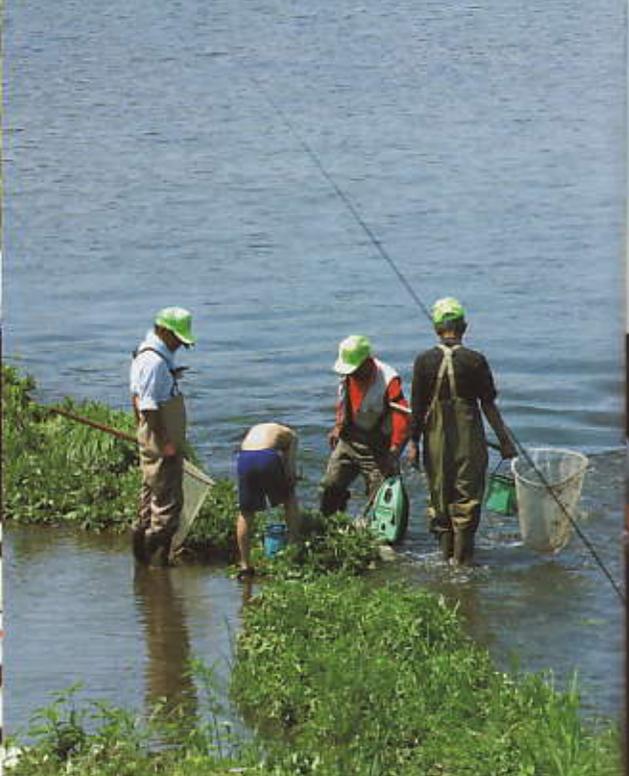
実践と提言の両輪で
環境のまちづくりを進める





「毎年、シャッターの隙間を抜けてあいさつに来るんだよ。『今年もよろしく』と」。埼玉県志木市にあるべあもろる商店街の佐藤豆腐店のご主人は、身振り手振りを交え、子どもたちに説明している。エコシティ志木が学習・教育活動の一つとして実施している「こどもとおとなの自然塾」の二回目「ツバメの子育てを見てみよう」のヒトコマである。この日の参加者は案内役の会員に加え、小学生とその親御さんたち二十人ほど。東武東上線柳瀬川駅を皮切りに、商店街、スーパーマーケット、鉄橋などにあるツバメの巣を見て回った。残念ながら今年も、子育てが例年より遅く、雛はまだ生まれていなかったが、それでも巣から出てえさを求めて飛び回るツバメの姿を目にすることができた。子どもたちは、駅員や商店の人たちに「ツバメの巣を大切にしてください」というので、ツバメにかわってお礼を申し上げます」という「かんしゃ状」を渡していた。

翌日は調査・研究事業として、柳瀬川土手で出前水族館を開いた。近くの黒目川の保全活動に取り組み黒目川に親しむ会の協力を得ながら、網で魚を掬った。アユ、ヨシノボリ、オイワカなどの魚類やヌカエビ、カメなど計二十二種を捕らえ、水槽に展示した。土手を散歩する人たちが立ち寄り、「こんなに種類があるんですか!」と水槽に魅入っている。一方、野鳥ウォッチングも開かれ、川沿いや田んぼに訪れる渡り鳥の種類やその数をチェックしてい



く。

翌週は、環境の保全事業として行なっている斜面林の手入れや野草観察会が予定されていたのだが、生憎の雨で中止になってしまった。ことほど左様に毎週末と言ってよいほどに、エコシティ志木では、活動をしている。今、紹介したのは同会のなかの「水と緑」部会が担当する活動だが、それ以外にも「こみとエネルギー」「保健・福祉」「まちづくり」の三部会があり、市民へのゴミ分別のアンケート調査、市から受託している「志木市の環境」冊子の編集、まちのお宝発見ツアーなどを実施している。そして、いずれの活動にも、かならず、ホームページなどで会員以外の人の参加を呼びかけている。さらに、会を代表してあるいは個人の資格で、市の審議会の委員や小学校の総合的な学習の教師役などが加わる。

しかし、エコシティ志木の本領は、日々の実践活動に裏打ちされた市民や市行政に対する提言活動にあるように見える。現在、平成十年に策定した「市民がつくる志木市の環境プラン」の見直し作業を進めている。この環境プランは、同会が発足した平成七年から二年半の歳月をかけて作成したもの。エコシティ志木は、市が主催した環境大学に参加した人たちを中心に結成されたが、「環境グループのリーダー格の人たちが参加しているのだから、環境基本計画づくりを」という呼びかけに応じて作成された。ここで、基本にしたのは「自分たちの目で見て、感



じて」作っていかうということ。市内を流れる川の源流まで歩き、水質を調べたり、落ち葉を集めて堆肥づくりをしたり、とフィールドワークを積み重ね、それを基にしたワークショップを行なった。このなかでは「水と緑のネットワークプラン」「ごみダイエットプラン」など六つのプランを提言している。環境をテーマにしているが、環境を良くしていくにはコミュニティ自体を変えなければと、市民参加のまちづくり、さらには福祉の提言も盛り込まれている。

翌十一年、志木市は「環境基本計画」を策定した。策定にあたって、その委員は公募制で募集したが、エコシティ志木のメンバーが大半をしめ、その内容や作成過程は、環境プランの経験が反映されたものとなった。この計画は市民主導で作られた基本計画として各方面から高い評価を得たという。

「環境プラン」では、エコシティ志木自身の役割にもふれている。地域住民・団体、行政などのコーディネート役を担うというもの。冒頭に紹介したように市民を対象にした多彩な活動がその役割を果たしているといえよう。

■連絡先 〒三五三〇〇〇六

志木市館 一〇二二二〇八

TEL / FAX 〇四八・四七一・一三三八 (天田様方)

<http://www.eco-mansion.com/~eco/>

E-mail: eco-shiki@ff.e-mansion.com